

大切なのは「慌てずに行動する」こと

村上市総合防災訓練

「8月25日(日)午前8時 新潟県北部沖で震度6弱の地震が発生し、日本海沿岸に大津波警報が発令された」という想定で実施した防災訓練には、市内各地区の町内・集落から約1万4千人が参加しました。

今年は、家族や地域が自主的に取り組み、実際に災害が起きたときに「慌てずに行動できる」よう、参加者が「考えて行動する」実践的な訓練をすることを目的に実施しました。

参加した大勢の市民の皆さんは、災害が発生したときに、どのように行動すればいいのかを確認しながら、訓練を行っていました。



村上地区

村上地区では、避難訓練や消防団による避難誘導を各地域で実施しました。

メイン会場の村上南小学校では、避難所設営訓練や村上総合病院DMAT隊による救助訓練、自衛隊などによる炊き出し訓練も行われました。

また、初期消火訓練では、参加者が協力して消化活動を行いました。



▲DMATチームによる救助訓練
(村上南小学校)

▼バケツリレーによる初期消火訓練
(村上南小学校)



荒川地区

荒川地区では、避難訓練や炊き出し訓練、救急法の講習などを行いました。

メイン会場の保内小学校では、高齢者や障がいのある人(災害時要援護者)の輸送や避難者数・避難者情報を把握するための避難所設営訓練が行われました。



▲避難所設営訓練
(保内小学校)

神林地区

神林地区では、避難訓練のほか、無線による通信訓練、AED(自動体外式除細動器)操作・応急手当訓練を行いました。

砂山小学校でのAED操作訓練では、参加者がその操作方法を体験しながら学んでいました。



▲AED操作・応急手当訓練
(砂山小学校)

朝日地区

朝日地区では、避難訓練、初期消火訓練、現地災害対策本部設置訓練などを行いました。

初期消火訓練では、参加者が消火器の使用方法について、消防団員から手ほどきを受けながら、実際に火を消していました。



▲初期消火訓練
(朝日保健センター)

山北地区

山北地区では、避難訓練や初期消火訓練などのほかに消防団による放水訓練、情報収集訓練なども行いました。

消防団による放水訓練では、参加者もホースを持って放水するなど、体験型の訓練を行いました。



▲放水訓練 (寝屋集落)